

している。この食品事業を大幅に強化しており、新たにパインアップル果汁の取り扱いを開始した。

▶食品事業の主力製品は、南アフリカのランゲバーク&アシュトンフーズ社の日本総代理店として、「ゴールドリーフ」ブランドの缶詰（シロップづけ）を40年以上取り扱っている。

この缶詰には、モモ、洋梨、アンズ、フルーツカクテルをラインアップしている。日本国内ではプレミアムブランドとして認知され、食品系問屋を経由して外食産業などの業務用市場を中心に、小売用商品も販売されている。また、病院や学校給食では缶詰の安全性や長期保存性にも高い評価を得ているという。同社によれば、特に黄桃の缶詰では国内シェアが25～30%に達するという。

このほかでは、飲料原料用としても使用されている南アフリカのグレープフルーツ（ホワイト、ルビーレッド）とバレンシアオレンジ、レモンなどのさのう缶詰（Onderberg社）やIQFセグメント・さのう（Dynamic Commodities社）を販売している。また、「コンタデイナー」ブランドでデルモンテアジアパシフィック傘下のPHILPACK社のパインアップル缶詰やトロピカルフルーツミックス缶詰等を展開している。

こうしたなかジェー・ガーバー商会では、2024年からデルモンテフィリピン社のパインアップル濃縮果汁の取り扱いを開始した。デルモンテフィリピン社は、パインアップルの栽培・収穫・缶詰加工・搾汁を一貫して行っており、今回の果汁取り扱いによりその強みがさらに発揮される。

パインアップルはASEANが主力で、

ジェー・ガーバー商会

ジェー・ガーバー商会は、1920年設立のガーバー・ゴールドシュミットグループの日本貿易商社として1934年に設立された。同社では、海外へオートバイなどの産業機材を輸出しているほか、海外の加工食品を日本市場へ紹介



タイ産が半数を占めている。フィリピン産は30%程度であったが、タイの人件費高騰や天候不順による不作で、パインアップルの主産地はフィリピンやインドネシアに移りつつある。デルモンテフィリピン社は3万haの自社農園から75万トンのパインアップルを収穫し、品種はスムーズカイエン種とMD2が中心である。

収穫した果実は、ストレート果汁や濃縮果汁として加工されるほか、IQFも生産している。果汁の生産量は濃縮果汁換算で年間7,000~8,000トンとなっており、主に欧州向けに輸出されている。

ジェー・ガーバー商会によれば、この豊富な生産量に加えて競争力ある価格が魅力といい、2025年は年間で1,000トン超の濃縮果汁の取り扱いをめざしている。

▶2025年6月1日からS&Wファインフーズ・インターナショナル・リミテッド社(S&W社)の加工品全般の取り扱いを開始する。これは、S&Wブランドを保有するデルモンテアジアパシフィック社と、ジェー・ガーバー商会の親会社「ガーバー・ゴールドシュミットグループ」が戦略的グローバルパートナーシップを結んでいるためだ。

S&W社は、1896年に米国で創業した加工食品ブランド。日本では、豆類をはじめ、パインアップル、フルーツカクテル、ブルーベリー、ダークスイートチェリーなどの缶詰を展開している。ジェー・ガーバー商会では、引き続きプレミアムブランドとして高級スーパーを中心に、小売用のみならず、業務用も展開していくという。